

Bibliophiles

ビブリアファイルズ No.1(2017年度)

新着図書案内・お知らせ 西宮東高校図書館

(ここで紹介するのは新しい本の一部です。)



『もしも紫式部が大企業のOLだったなら』 井上ミノル

イラストレーターの作者がマンガ仕立てで書いた、古典文学の入門書です。タイトルだけ見ると「源氏物語の解説か?」って思ってしまうのですが、さにあらず! 実はこの本のテーマは「百人一首」で、主要な歌の背景や作者などについて分かりやすく説明しているのです。一見、この本はとっつきやすいのですが、結構レベルの高い内容も含んでいますので、古典の一種の参考書として読むのも悪くありません。

『英語シナリオで楽しむアナと雪の女王』と『ズートピア』 高橋基治

おなじみのディズニー作品の原文の英語と日本語訳を載せています。英語学習を目的に作られていますので、あくまで原作に忠実な英語、正確な訳を心がけています。このため、例えば市販のDVDの英語字幕や日本語字幕とは異なる面もあるみたいです。



中国四大奇書・四大名著の『金瓶梅(キンペイバイ)』と『紅樓夢(コウロウム)』の全巻が入りました。

『三国志演義』『西遊記』『水滸伝』は日本でもよく読まれていますね。この三作に『金瓶梅』を加えると「四大奇書」、『紅樓夢』を加えると「四大名著」・・・という、かなりヤヤコシイですが二通りの「中国小説ベスト4」になるそうです。(ちなみに「奇書」は「ヘンテコな本」ではなく「すぐれた本」という意味です。) いずれも映画やテレビドラマにもなった人気作で、この機会に、中国古典小説の面白さに触れてみて下さい。

『永遠のPL学園: 六〇年目のゲームセット』 柳川悠二

甲子園春夏通算96勝、全国制覇7回を誇るPL学園野球部は昔からの高校野球ファンにはおなじみですが、ニュースにもなりましたように、この3月をもって実質上の廃部となりました。輝かしい歴史を持つ強豪校がなぜ廃部という結末を迎えたのか、作者は徹底した取材で真相を浮き彫りにします。第23回小学館ノンフィクション大賞を受賞しています。

『か「」く「」し「」ご「」と「』 住野よる

『君の臍臓をたべたい』(通称キミスイ)の大ヒットでおなじみの人気作家の新刊本です。タイトルがかなり怪しい(笑)ですが、内容も一風変わっています。一種の超能力を持つ5人の高校生をキャラクターとした作品で、「ファンタジー系青春小説」とでも呼ぶんでしょうか? どんな能力か気になる方やキミスイがお好きな方は、ぜひご一読を。

宗教改革 500 年を記念して新しい本を 2 冊入荷しました。

マルティン・ルターの代表作の『キリスト者の自由』。翻訳者はドイツ語とラテン語のふたつの原典に接し、50年以上ルターの研究を続けてきた徳善義和です。本の3分の2を占める詳しい注解も役立ちます。もう一冊は小田部進一の『ルターから今を考える』。宗教改革500年を意識して昨年刊行された本で、ルターの生涯や改革の意義などを多方面から解説した労作です。

図書館からのお知らせ

今年から、各自が持ち歩く「身分証明書」を図書カードとして利用できることになりました。本を借りたい時は、借りたい本と身分証明書をカウンターまで持ってきて、係の者に提示して下さい。返却時は、今まで通り本を渡すだけでOKです。

もし身分証明書を忘れてしまったりした場合は、カウンターの係までその旨を伝えて下さい。

『この世界の片隅に』上・中・下 こうの史代

昨年大ヒットした映画の原作コミックスです。作者によれば、人々の「死」ではなく「生」や「日常」を描いた戦争ものにしたかったそうです。広島・呉を舞台に、戦時の毎日を懸命に生きる人々を、温かいタッチで描いた作品です。

『ホワット・イズ・ディス?: むずかしいことをシンプルに言ってみた』 ランドール・マンロー

「ホワット・イフ?」のベストセラー作家が、今度は大型絵本を出してきました。本のコンセプトは「難しい専門用語を使わずに、易しい言葉と絵で色んなものを解説してみよう」というもの。例えば・・・

①君の体を作っている小さな水のふくろ

②街を焼きはらうマシン ③高くなった道

これらが何かわかりますか? 答えは・・・図書館へ!

今号のひとこと

Wenn ich w ü sste,dass morgen die Welt unterginge,
w ü rde ich heute noch ein Apfelb ä umchen pflanzen.
たとえ明日世界が減びると分かっても、
今日私はリンゴの若木を植えるだろう。

マルティン・ルター(1483-1546)

ルターが1517年10月31日に発表した「95カ条の論題」がもとで始まった宗教改革。ドイツ国内でプロテスタントの強い地域では、その10月31日を「宗教改革の日」として祝っていますが、宗教改革の500周年に当たる2017年は、ドイツ全土で国民の祝日とするようです。

良くも悪くも、宗教改革は大きな歴史の流れを生みました。そのおかげで多くの戦争が起き、人々が死にましたが、そうした争いがなければ、例えばオランダという国は生まれなかったでしょう。